



2007～2008年度
国際ロータリーのテーマ
RCは分かちあいの心
2007～2008年度
『ウィルワールド』、ウィルキンソン

Weekly Report

創立：1980年(昭和55年)1月10日
会長：岩本 成郎
幹事：西本 哲
クラブ広報委員：亀井 直人
例会日：毎週木曜日PM12:30～
会場：ビルトシ名古屋
事務局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3
ビルトシ名古屋910号
TEL：052-211-3803
FAX：052-211-2623
MAIL：2760nagoya@mizuho-rc.jp
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

第1354回例会

～ロータリー世界理解月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2008年2月14日(水) 晴 第30回

司会：稲垣 豊会場委員
斉唱：「我等の生業」
ゲストスピーカー：2008～2009年度R財団 国際親善奨学生
橋田直樹さん
ビジター：東金ビューRC 中里重幸さん

会長挨拶 岩本成郎会長

一魅力ある国ブラジルは今～

08年は日本からのブラジル移住100周年を記念(日本ブラジル交流年)とし様々な交流行事が予定され、一方新興国の一角として成長が著しいブラジルに対する日本企業の注目度も急速に高まっています。



そこで、日本貿易振興機構(ジェトロ)海外調査部中南米課長代理を務める二宮氏の資料を参考にまとめてみました。昨年の会長挨拶の中で新興国の共通点として①人口が多い②資源が豊か③国が広い、そんな話をしましたが、ブラジルは農産物・鉄鉱石・非鉄資源・石油、エタノール等多様な資源があり、しかも輸出余力があります。そして国内生産(GDP)も1兆ドルと大きく、産業もしっかりしてきました。日本との間では、バイオエタノールでの連携や、エンブラエル航空機を日本航空グループが導入するなど、従来なかったビジネスも出てきています。

最近の貿易額では日本より中国の方が大きくなっていますが、これ迄の投資ストックでは日本の方が上です。中国とのビジネスが増えたのは、00年代からで日本とは歴史の厚みが違います。又、日系人も日本の存在感につながり、08年というタイミングでの日本ブラジル交流年は両国の関係をさらに深める絶好の機会となることでしょう。

ブラジルでは日本のデジタルビデオ方式が採用され、中長期的には日本方式をきっかけにしたワンセグサービス等のビジネス展開が考えられますが、ブラジルは他の途上国との「南南外交」に力を入れている点、ブラジルを起点にそうした技術が中南米やアフリカに広がると言われ、実際バイオエタノール関連ではアフリカにサトウキビ栽培や精製プラントの技術協力を始めています。そうした事から、ブラジルを途上国開拓のための「グローバル、ビジネス、プラットフォーム」と位置づける時期が来ているのではないのでしょうか。

マクロ経済は以前よりかなり安定しているようです。しかし想定されているリスクとして2010年の政権交代では金融経済政策の方向性が変わる可能性は小さいです。しかしながら、なんと言っても弱点はインフラです。

電力の70～80%は水力発電に頼っていますが官僚機構の改革が進まず、発電所の建設プロジェクトが遅れているので、このままの経済成長を続けていけば2010年前後に電力危機も考えられます。道路港湾への投資も進まず物流面での不安もあるとされ、発展とインフラの同時進行は広い国ほど難しく、光と陰はどこにもある事と思います。

出席報告

梅田朋嗣出席委員

会員71名 出席52名 (出席計算人数52名)

出席率86.6% 2月 7日は補填により 93.5%

幹事報告

西本 哲幹事

・2月18日(月)本年度西名古屋区分I.M.です。15時35分から19時45分 名古屋観光ホテル「曙の間」と「那古の間」で開催されます。よって2月21日(木)は休会です。尚、I.M.は例会扱いとなっておりますので欠席の方は必ずメーキャップをさせていただきますようよろしくお願いします。

臨時例会変更のお知らせ

名古屋南	2/13(水)			
名古屋北	2/15(金)※		2/29(金)	
名古屋東			2/25(火)	
名古屋守山			2/27(水)※	
名古屋みなと		2/22(金)		
名古屋東南	2/13(水)		2/27(水)※	
名古屋中		2/18(水)		
名古屋和合			2/27(火)※	
名古屋名東	2/12(火)※		2/26(火)	
名古屋名北			2/27(水)※	3/5(水)
名古屋千種	2/12(火)※			
名古屋大須	2/14(木)			
名古屋栄	2/11(月)※	2/18(月)※		
名古屋名南	2/12(火)※	2/19(火)※		
名古屋昭和	2/11(月)※		2/25(月)	3/3(月)
名古屋西南		2/21(木)		3/6(木)
名古屋錦		2/19(火)	2/26(火)	
名古屋東山		2/21(木)		
名古屋葵			2/28(木)※	
名古屋清須		2/19(火)※	2/26(火)※	
名古屋城北			2/26(火)	
名古屋空港	2/11(月)※			

(注) ※は休会・その他理由につきビジター受付はありません。

ニコボックス

梅田朋嗣ニコボックス委員

- ・2月20日誕生日です。あと6日でシックスナインです。
松井 善則さん
- ・今月は誕生日です。
馬場 将嘉さん
- ・2月18日は私の誕生日で58才になります。
宗宮 信賢さん
- ・本日結婚記念日です。
長坂 邦雄さん
- ・2月18日は妻の誕生日です。
近藤 雄亮さん
- ・2月3日は妻の誕生日でした。又、先週は友人の葬儀の為卓話を延期させていただきご迷惑をかけました。
高村 博三さん
- ・お久しぶりです。2月は妻の誕生日です。
大川 嘉成さん
- ・皆に久しぶりだなアーって言われました。
内田 久利さん
- ・寒い日が続きます。体に気をつけましょう。来週(月)はI.M.です。会場は名古屋観光ホテル。全員登録ですのでよろしくお願いします。
岩本 成郎さん

- ・大川さんに久しぶりにお会いして **渡辺喜代彦さん**
- ・本日例会前のクラブ奉仕委員会を無断欠席致しました。高須委員長を始め委員会の皆さんご免なさい。 **野崎 洋二さん**

一は国民の条件を血縁と結びつける事によって「友愛」の範囲を限定しました。つまり、もともとの国民の中に居るもののみが「友愛」の範囲として数えられるのであって、それ以外のものが排除される可能性があります。

この「友愛」という理念にまつわる、偽りの無条件性に対して疑問を投げかけたのがマルクスです。マルクスは、非常に厳しくフランスにおける「友愛」の掛け声を非難し、「友愛」という理念が実質を失ってしまって、異なる階級に属するもの同士の交流とはなっていないと述べています。マルクスは彼が階級史観をもとに「友愛」を観念的なものとして反対しているわけですが、僕の観点では、ここで述べられている事は「友愛」という理想にとって本質的なものではないかと思えます。つまり「友愛」という理念は、無条件に異なる立場にあるものを受け入れるというのですが、実際にはある程度の枠を決めた中での結合とならざるを得ない。そのことが、時に結合の原理ではなく、排除の原理として働く事もありえるということです。このことは、民主主義の原理と共に考え合わせると重要な点です。以上が非常に簡単に振り返ったヨーロッパにおける「友愛」の概念の歴史です。

日本の伝統には、そのような「友愛」観は無いのでしょうか。そう思って見てみると、『論語』には数多くの友人に関する話が残っています。そこに表れている関係は、人間同士の自然な関係です。そこには、アリストテレスのような体系的な政治的意図がなく、またアリストテレスが人々のあいだの徳として「友愛」のことを考えたとは違って、むしろ君主の徳として「友愛」が考えられています。しかしそこには、アリストテレスの「友愛」観に比べられる、自然で自発的な徳が表現されています。

そのような「友愛」観が政治的な表現をとるとどうなるか、という観点から今度は荀子を見てみると、荀子は礼儀差別のない人間関係は争いと混乱の世界と見なされるべきであると述べています。ここには、アリストテレスをはじめとするヨーロッパの世界における人間への信頼、つまり人間の間で自発的に生まれる徳としての「友愛」は全く評価されていません。それは、社会を安定させる一方、社会のあり方を閉じてしまう事につながる可能性があります。この点が、ヨーロッパの伝統と違うところだと思われれます。

最後に、このような東西における「友愛」論を踏まえたうえで、現代において実現すべき「友愛」について僕なりに思ったことは、まず、ロータリーという組織は現代の日本において「友愛」ということを実現することのできる可能性を持った組織だということです。僕が最初にロータリアンの方に出て面接をしていただいたときに、ロータリーというのは、最初はそのすごさがわからないかもしれないけれども、実はすごい事をしているのだと教えていただきました。日本における「友愛」の実現ということが一つあるのではないかと、今は思っています。おそらく、アリストテレスや孔子の時代は、今より狭い世界であったから無条件の「友愛」ということを考えるのがより簡単でした。しかし、より複雑さを増していく現代において「友愛」を築き上げていくことは、より困難であると同時に、最も必要とされていることではないでしょうか。その上で、少しずつ友人の範囲を広げていくことが、現代において重要になってきます。ルソーの時代においては、一つの国の中で違う立場の人たちを友人と呼ぶ事が非常に大きなことでしたが、現代においては地理的な距離は急速に短くなり、単におなじ国の隣人を友人と呼ぶだけではなく、遠い国の人たちをも友人と呼ぶ事が求められているのではないかと思います。また「友愛」の輪の中に女性が入る事ができるかどうか、という事も現代においては重要だと思えます。もともとfraternityというのは兄弟愛であって、そこに女性が入っていません。そのもともとの意味を超えて、女性にも「友愛」という言葉の意味を広げる事が、もう一つの現代における「友愛」の課題ではないかと思えます。

お詫びと訂正

1353回ウィークリーにおいて、2ページ目の左側、3つ目の項目が「萎縮状伝達」となっておりますが、正しくは「委嘱状伝達」です。お詫びの上、訂正致します。

今週行事

2月18日(月)

西名古屋区分I.M. 15:30~19:45
場 所：名古屋観光ホテル 「那古の間」「曙の間」

お知らせ

※2月21日(木)振替の為休会

次週卓話

2月28日(木)

会員卓話：高村 博三さん
テ ー マ：台北延平RCとの交流について

バナー交換



本日のビジター、東金ビューRCの中里重幸さんとバナーの交換が行われました。

委員会報告

環境保全委員会:松岡道弘委員長

先週会長からCO2削減についての話があり、その後の会議で、家庭でできるCO2削減の具体的な提案をということで照明器具のカatalogを用意致しました。ご関心のある方はお持ち下さい。例えば、一般的に使われている白熱球を『パルックボール』に変えると年間1700円の節約になりCO2を9kg削減することができます。よろしくお願い致します。

卓話 2008~2009年度R財団 国際親善奨学生 橋田 直樹さん

「友愛」についての哲学的考察



なぜ僕がロータリーにおける「友愛」について興味を持ったか、という事についてお話しします。簡単に言うと、ヨーロッパ由来の「友愛」の理念を日本において実現するのは少し難しいのではないかと思うのですが、その難しいことにロータリーが挑戦しているという事に思い至ったというわけです。

「友愛」という言葉はfriendshipあるいはfraternityという言葉の翻訳です。この言葉は直訳すると兄弟愛という意味で、これは親子の間の縦の関係の愛ではなく、同じ立場に立つ兄弟同士の横の関係を表します。ここで重要なことは、「友愛」における平等ということです。

「友愛」という言葉は、「友情」という言葉とは違うニュアンスがあります。「友愛」という言葉は、公的な社会において使われる、より広い人々に対して向けられて使われるような気がします。ロータリアンではない人がロータリーの会場に来て、「友愛」という言葉が標語として掲げられているのを見ると、普段の生活では使われない言葉なので、少し違和感を覚える方もいるのではないのでしょうか。しかしながら、僕の実感で言うと、実際にロータリーに関わっていくと、ここで「友愛」という言葉が表しているものが何であるのか、少しずつ判ってくるような気がします。ロータリーの組織というものがそもそも異なる職業を持ったもの同士の話し合いからなっており、自らと異なるものをも受け入れるという事に対する素地があるのでしょうか。

そのようなロータリーにおける「友愛」の起源は、直接にはヨーロッパにあると考えられます。人間の「友愛」に関するヨーロッパ思想の原点は、他の多くの場合と同じようにアリストテレスにさかのぼります。アリストテレスの「友愛」論において押さえておきたい点は2点、「友愛」の政治性と「友愛」の無条件性です。まずアリストテレスによれば「友愛」は単に私的な個人の間での関係ではなく、政治的な意味を持っています。アリストテレスは、国内の秩序を守るためのものとして「友愛」を捉えています。ここで重要なのは、法というものが正義のように単に上からもたらされるものではなく、同じ資格をもったもの同士から自然と、自発的に生み出される下からの協調を目指している、とされている点です。さらにアリストテレスは、「友愛」とは善い人同士の関係であって、安定した自己を保っている人同士の関係だと述べています。善い人が、自分の中にとどまることなく、第二の自己である友人との協調のうちに自らの徳がおのずから現れることこそ真の「友愛」であるとして説明されています。ここで何よりも重要なのは、「友愛」の無条件性です。

そして中世の次に「友愛」の理念が大きく扱われる事になる舞台がフランス革命です。「自由、平等、友愛」という標語の中の「友愛」という言葉にはルソーの影響が大きく表れています。ルソーがアリストテレスによる「友愛」の政治性と無条件性を受けて国民を兄弟として捉えたことは、フランス革命の時点において貴族と平民という二つの階級をどちらも市民として、つまり同等のものとして捉えることを可能にしました。これはルソーがアリストテレスから受け継いで実現した、よい面です。が、それにもかかわらず、ルソ